

## コロナ禍における医療ソーシャルワーカーの覚悟と挑戦

-職場外・職場内・自己研鑽の3つの視点から-

法人名 国立病院機構  
病院名 横浜医療センター  
職種・所属 医療ソーシャルワーカー・相談支援センター  
発表者氏名 高瀬昌浩  
協力者氏名 本田麻穂（大倉山記念病院）  
鈴木麻紀（かわさき記念病院）

### I. 研究目的

コロナ禍がもたらす医療ソーシャルワーカー(以下：MSW)への影響ならびに、そこでの MSW の覚悟と挑戦を明らかとし、MSW の今後の支援に活かすことを目的とする。

### II. 研究方法

1. 研究方法：一次調査：自記式質問紙調査、二次調査：フォーカスグループインタビュー
2. 対象：病院(3名)高齢(2名)・障害(2名)・地域社会(2名)・子ども(2名)の5つの分野のSW11名
3. 分析方法：単純集計とインタビューの内容分析(逐語録からコロナ禍における覚悟と挑戦に関する内容を抽出し、「どのような悩みや不安等があったのか」「悩みや不安等に対してどのように対応したのか」に着目して質的に分析した。

### III. 結果・考察

本研究は、社会福祉士を5つの分野に分け調査を行ったが、分野における大きな差異は認められなかった。なお、医療従事者という言葉に対し、MSW はすべて「自身は該当する」と回答したが、病院以外のSWは「該当しない」と回答しており、MSW には、SW としてのアイデンティティに加え、医療従事者としてのアイデンティティが芽生えていたことが分かった。

対象者からは「生活困窮のニュースが多く、自分がなにかできないかと考えた」「コロナ禍で必死となっている他の専門職をみて自分も貢献したいと思った」「世間が大変な時ほど大切な職種は評価される」という言葉あり、多くのSWが自身のSWという職業に向き合い、その役割や必要性を省察していた。そして、職場内における様々な制限に対して出来ることを行い、職場外にも自主的な行動制限を行い、自己研鑽も新たな手段を選びながら行っていた。このようにコロナ禍を契機に、MSW は大きく成長し、新たな時代に入ろうとしている。

### VI. 結論

1. コロナ禍は、生活者であり生活を支援するSWに大きな影響をもたらしていたが、MSWだけでなくすべての分野のSWは職場外、職場内、自己研鑽で不安や苦勞に対し覚悟(アセスメント)をして、新たな挑戦(対応)を行っていた。
2. 職場内におけるSWの挑戦では「積極的な情報収集・共有」が挙げられた。
3. 今後は、MSW自らがこれからの自身の役割を認識し、それをコロナ禍、ポストコロナ禍(新たな時代)で展開していくことが求められる。